



労働災害ゼロを目指し、「高安グループ安全委員会」が発足。

高安(株)資材部は、協力回収店様7社と独自の協働体制を築き、共存共栄の精神で事業活動に邁進しています。各社とも、これまで「労働安全は生産活動の基盤」という考えのもと、労働安全の確保に努めてきましたが、高安グループとして周知徹底を図るべく、平成25年7月に「高安グループ安全委員会」を立ち上げました。今号では、その取り組みについてご紹介します。



ゼロ災害を実現するためには、危険をゼロにすることが必要です。

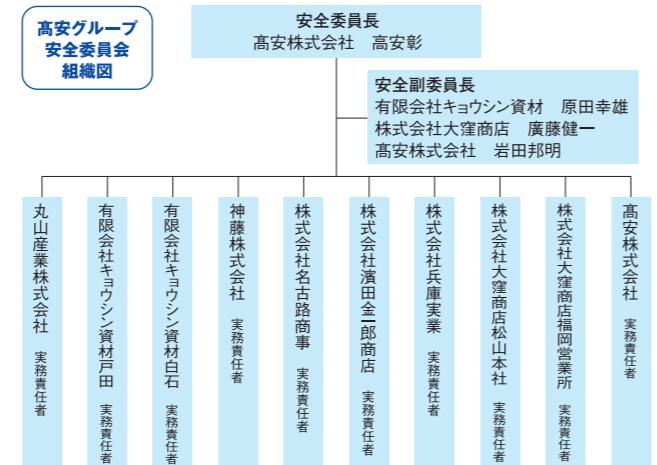
高安グループ安全委員会 安全委員長 高安 彰

すべての事業活動において「安全」が最優先であることは言うまでもありません。しかし高安グループではさまざまな安全対策を行なながらも、労働災害ゼロを達成できていません。この事態を真摯に受け止め、今後は安全委員会を中心にグループ一丸となって、より高いレベルの安全活動に取り組む考えです。具体的には、協力回収店様それぞれの特性を踏まえた安全パトロールや定期的な委員会の会議などを通じて、特にリスクアセスメントの定着を推進。作業現場に潜む災害リスクの低減と、安全管理水準の向上に努めています。

第1回安全委員会会議を開催。

平成25年7月19日に高安(株)本社にて臨時回収代行会議を行い、その中で高安グループ安全委員会発足の議題が討議され、全会一致で承認されました。

当安全委員会は、協力回収店様7社および高安(株)より選出された14名で構成。会議では安全委員長に資材部部長 高安彰が任命されるとともに、組織体制を決定致しました。また、9月6日に大津プリンスホテルにて第1回安全委員会会議を開催し、高安委員長、岩田副委員長を中心に今後の活動内容や安全に対する考え方について意識の統一を図りました。



回収協力店で安全パトロールを実施。

実施日 2013年10月10日 対象事業所 神藤株式会社(愛知県豊橋市)

“危険の芽”を細かく丁寧に摘み取っていくことが安全活動の基本。



②パトロール開始

危険箇所は漏れなく見つけ出し、その場で改善方法を提示することに努めました。



▲紙管の残糸を巻き取る機械の一部分が、身長によって頭をぶつけてしまう危険性があることを発見。ヘッドガードを付けるなどの安全対策を改善事項としました。



▲消火器が所定の場所に備えられているか、期限切れになっていないかを確認。「従業員の皆さんのお蒙のため、消火器の看板をもっと高い位置にして」などもアドバイス。



▲S5(整理・整頓・清掃・清潔・躰)を徹底しているという神藤様の事業所内は整然としており、作業環境は極めて良好。広い通路や配線コードの処理などからも、安全に対する十分な配慮が伺えました。



①オリエンテーション

安全パトロールの目的や手順などを説明するオリエンテーションを行いました。



安全パトロールメンバーより

神藤さんの事業所は整理整頓・清掃が行き届いており、安全対策も随所で実施されていました。このことは、従業員の皆さんのが日ごろから熱心に安全管理活動に取り組まれている証。大変心強く感じます。今回のパトロールでは、すぐには災害につながらないと思われる些細なことも、第三者の視点から指摘させていただきました。参考にしていただき、災害ゼロに向けて共に全力を尽くしていきましょう!

神藤の白井駿社長より



当社は昭和30年の創業以来、清潔で安全な職場づくりに取り組んでいますが、今回のパトロールによって改善すべき点がまだたくさんあることに気づかされました。ご指摘いただいた点は、これまで以上に気を引き締めて作業現場の安全徹底を図っていきます。

私は先代から事業を受け継いで今年で4年目。経営者として勉強中の身ですが、会社の質を高めるために、より人を大切にし、コミュニケーション力を入れていきたいと考えています。取り組みの一例として、ユーザー様の細かなニーズにしっかりと対応できるよう営業スタッフを増員しましたほか、会社のロゴマークやユニフォームを一新しました。お客様・お取引先へ、神藤に関わるすべての人が繁栄し、幸福になることが私の願いです。